



持田小学校学校だより

オアシス

※学校ホームページは
こちらからどうぞ→



2025年度 第12号
令和8年3月19日
松江市立持田小学校
校長 吉田 卓矢

令和7年度 松江市立持田小学校卒業式



穏やかで春を感じさせてくれる一日でした。まるで、6年生の卒業を祝福しているかのような天候となり、3月17日に令和7年度の卒業式を挙行いたしました。卒業生は、一人一人卒業証書を受け取り、立派に巣立っていきました。持田小学校のリーダーとして下級生たちを引っ張ってくれた6年生は、持田小学校自慢の6年生でした。

「校長式辞」では、6年生がこの一年間の学校の優しくて温かみのある雰囲気を作ってくれていたこと。そんな6年生だからこそこれからの成長していく姿をととても楽しみにしているという話をしました。

「可能性は無限大」一昨年度夏の甲子園大会で大社旋風を巻き起こした監督、石飛文太先生の言葉です。今年の松江市の成人式では、市長さんも同じ言葉で祝福されていました。ただし、石飛監督はこうも言われました。「目標を達成できたのは、子どもたちが今の自分を正しく知り、何をどれだけすればいいかを考え、やりきったからだ」と。仲間を大切に、楽しむ力という大きな宝物に「自分を正しく知る力」が加われば、皆さんの可能性は無限に広がっていくことでしょう。(要約)

上学年が下級生のお世話をしたり、優しくしたりするのは持田小学校の伝統です。しかし、それを当たり前文化となるまで、全校児童で創り上げようとしてくれた6年生。感謝の気持ちでいっぱいです。そんな皆さんの姿を見て、4、5年生も次は自分たちの番という気持ちを新たにしてくれたに違いありません。卒業生を送る、歌や呼びかけの一言一句にその思いが詰まっていました。

先生方や地域の方々も、皆さんのことを中学生になっても応援しています。拍手で送られながら式場を後にする卒業生の歩く姿に、自信が満ちあふれているように見えました。中学校での活躍を心から願っています。



卒業生入場



卒業証書授与



お別れの言葉



卒業生見送り

6年生を送る会

2月26日に「6年生を送る会」を行いました。6年生が一人ずつ紹介されながら入場し、一人一人思い思いのポーズを決めると、下級生から歓声が上がりました。5年生のナレーションも素晴らしく、すてきな6年生だったなあと改めて感じさせてくれる演出にスタートから大盛り上がりとなりました。

その後は各学年からの贈り物です。6年生との時間を惜しむかのように、今年の出し物はメッセージや発表だけでなく6年生参加型の贈り物が多かったように思います。

後半は、5年生による「6年間の思い出スライド」「旧担任の先生からのメッセージ」「くす玉割り」と続きました。会全体を通して、温かい空気に包まれ、みんなの笑顔でいっぱいになる送る会となりました。

送る会に向けて様々な準備をしてきた5年生!!素晴らしい運営ぶりでした。「次は、私たちの番!!」という意気込みが伝わり、6年生を引き継いで自分たちで学校をリードしていこうという意欲を感じさせてくれました。



思い思いのポーズで入場



心温まるメッセージ



6年生と綱引き対決



6年生と一緒にダンス



6年生と一緒に大縄チャレンジ



工夫されたO×クイズ

おらせ

来年度の生活時程変更の試行することについてお知らせします。「楽幸づくり」を推進していくために今年度も様々な見直しを行ってきましたが、来年度はこども達の声も取り入れながら改革を進めていこうと考えています。そこで、こども達にアンケートを実施しました。聞いた項目は3つです。

- ①6時間しっかり学習することはとても大切なことです。しかし、早く帰宅(家に帰って)して、自分の習い事や得意なことを伸ばす時間にあてることも意味のあることです。今以上に5校時授業で帰る日を増やした方がいいと思いますか?
 - ②ロング昼休み(水曜日)について、友達と遊ぶ時間はとても大切です。やめると15分早く帰ることが出来ます。ロング昼休みは続けた方がいいですか、なくした方がいいですか?
 - ③現在そうじは週に4回(月、火、木、金)としていますが、来年度は、月曜日のそうじをなくして週に3回のそうじにしようと思いますがあなたはどのように思いますか?
- ①5校時で下校する日を増やした方がいい児童が**62.4%**
②ロング昼休みをなくし、15分早く帰った方がいい児童が**55.7%**
③掃除は週3回でもいい児童が**60.7%**



どの項目についても、短絡的に結論を出さず、しっかりメリット、デメリットを考え、子どもたちなりに回答してくれたことをうれしく思います。半数以上のこどもが早く帰った方がいいと考えている実態もわかりました。この結果を受けて、来年度は試行的に5時間で帰る日を増やしてみたり、ロング昼休みをなくしてみたりして、再度こども達の考えを聞いてみたいと思います。今後もこどもの意見を尊重し、楽幸づくりに子どもも参画できる持田小楽幸を目指していきます。